

松下昇様

10.8及び10.10日のお手紙と通信等有難うございました。その中の提起された2つの問題について、熊本の自主ゼミを媒介とした私の考えを記しておきます。

1) 103への提起について

熊本と103の関係は、現在、行方不明の〈代金〉が宿題に成り、そのために、完全な自主ゼミの必要に成ります*。この自主ゼミを媒介しようと、上述の提起が生まれて来ると思っています。

なお、私(たろ)は、103の、2の提起や、それに対する、103の熊本への参加の前提という発想はとやません。

10.1のレシメに書かれたように、(各人の自らの契機～必然性に基づいて)「入り自由」が、熊本の自主ゼミの原則である。

ついでに、何かをその「前提」として、「覚悟」し、自主ゼミに参加できるというわけではなく、可なり、可能限り、自主ゼミの中で展開されていく、というあり方を追求したいと思っております(103に限らず、すべての参加者について)

そして、2の「入り自由」というあり方は、制度(に非ざるに在る自覚性)と、そのことを鮮明に好むこととを必要とする。それから(も)向かってくると思っております。

その意味では、多岐未の成績評価～単位認定(の方式)に付いた問題については、一回一回、単位制との好むと考へて、〈公開性〉を追求してまいります。

*2の提起について
自主ゼミは、103に非ざるに在る契機を必要とする

三一への提起は、現時点で、本著、著者、刊行者、発行者、使用者等々の共同作業として進める必要があり、そのための自主ゼミ、熊本(の自主ゼミと連携するため)で行うことは、不可能とし、必要は否かとと思っております。

2) 「正本ドイツ語」の改訂

前便に記した、2つにとも構想された「改訂」とは、「ドイツ語」 「正本ドイツ語」(の合型)を上げし、(そのためのは、ドイツ語の〈〉に必要)

「ひき、そのから可なり」として、その方向での新しい行方不明の創造というイメージのものをした。

それと併行して、それあたり、今回提案されたように改訂も必要だと思っております。

また、そのことも、改訂の意味は、教定での使用という新たな団体的契機にした、「関係の中での、運動としての改訂作業」の中にあるだろうと思っております。初版は是く改訂の機会、改訂の内容として明確にしていかねばならないのは、

～根拠
〈原〉大自主ゼミの解任の過程、~~その過程~~

併取「正本～」(や「ドイツ語」)の改訂は現在まで放置されてきたもの

について、(当事者間の総括

併取は、その問題について

新書の使用(不)可能性
 熊平や京柳(深澤工)の、(当時と同位相の)層間の困難性
 103の抱えたる問題性 (〜新しい方向性)
 辭園の模索 etc

と徹底するものだと考へるからで
 して、それらに一つ、それ以外の項は、(改訂に因りて)の
 表現を呼びかければ如何にせよの
 ちのような否同の作業〜表現— 豊か性と普遍性の
 に組み立て — こそ、新しい、より大なる「改訂」の
 一つのステップにちるものと確信してゐる
 熊平の自主ゼミに於ては、公開性の獲得、と云つても、
 他に何れかの独自の「ゼミ」と云ふと思へる。〈教皇〉の
 自主ゼミを媒介として、その内実を深め、改訂作業へも
 何となくつながり、と考へてゐる。

その初版を元にした改訂である限り、初版の表現
 (発刊年からの註文)も、消してしまふのは、70年
 のころから残して置く方がよゝと思へる。

その他に
 * 通信集は、21年と、72年と教皇を忘らしてしまふ
 ために未来の読者のため、自主ゼミの部屋に置く
 ため。西沢氏の選題購入希望は、教皇の
 購入希望を意味する。第(3)号及び第25号は 10.112

渡しおした。今後女子大の自主ゼミに参加された時は、
 連絡先を件。お知らせ下さい

* 学生の惜しみ、やむを得ず、把握してゐる必要を感じて
 いる。そのほか、レポート(の一部は72年)を資料化して、
 そのうちを送りしめて、と思つてゐる

* 6.9 女子大教授会議事録(の一部) } 同封して
 熊平、女子大前期〈試験〉問題

1981. 10. 18. 元吉瑞枝